

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床検査技師学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	薬理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	後期 金曜	教室名	1校舎401 501
担 当 教 員	中島康仁	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
薬理学は生体との相互作用の結果、おこる現象を究明する科学です。薬理学総論を学習し、全般を理解します。そして薬物作用と薬物動態の両面から学習します。特に薬物作用機序を中心に学び、治療効果に限らず、その延長上におこる有害作用の機序、複雑な薬物の働きに対し、副作用の予知、発見などの一助になることを期待します。						
《成績評価の方法と基準》						
本試験 100点						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
使用教材:臨床検査学講座 薬理学(医歯薬出版)および配布資料を中心に講義します。 参考図書:わかりやすい薬理学(ヌーベルヒロカフ)						
《授業外における学習方法》						
授業の機会を通じ、薬理学に関連する書物を読んでみましょう。						
《履修に当たっての留意点》						
(1)薬を用いて病気を治療することとはどういうことなのか (2)治療に求められる基本的性質はどのようなものなのか (3)「病を癒す」ことは、薬物の効果にだけゆだねられているのだろうか、理解してみよう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬理学 薬による病気の治療について理解できるようになる。	臨床検査学講座 薬理学(医歯薬出版)および配布資料	資料から、薬による病気の治療、薬としての基本的な性質を理解しましょう	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 薬物の使用目的や薬物が作用する仕組みを総合的に学ぶ。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬理学 薬による病気の治療について理解できるようになる。	臨床検査学講座 薬理学(医歯薬出版)および配布資料	資料から、薬による病気の治療、薬としての基本的な性質を理解しましょう	
		各コマにおける授業予定	投与された薬物がどのように生体に作用して生体の機能の調節するかを学ぶ。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬理学 薬による病気の治療について理解できるようになる。	臨床検査学講座 薬理学(医歯薬出版)および配布資料	資料から、薬による病気の治療、薬としての基本的な性質を理解しましょう	
		各コマにおける授業予定	投与された薬物は生体内に吸収され分布して薬理効果を発揮する。その後、薬理作用を発揮した薬物はどのように代謝され体外へ消失するか、この過程を学ぶ。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	病態薬理学 薬の有効性・安全性について理解できるようになる。	臨床検査学講座 薬理学(医歯薬出版)および配布資料	薬の投与経路から、それぞれどのような問題点があるのか学びましょう	
		各コマにおける授業予定	薬物に対する生体の反応は個人差が生じる。薬物動態の個人差に関する遺伝的な要素と、作用部位での相互作用について学ぶ。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	病態薬理学 薬の有効性・安全性について理解できるようになる。	臨床検査学講座 薬理学(医歯薬出版)および配布資料	薬はどのように体内をめぐるのか、この項で臨床検査技師は、薬物血中濃度モニタリングのための、薬物血中濃度測定を担当します。	
		各コマにおける授業予定	消化管粘膜からの吸収 肝臓での代謝 薬物の代謝 腎臓から尿中への排泄 薬物の血中濃度と薬物血中濃度モニタリングを学ぶ。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	病態薬理学 器官別薬理と作用機序について理解できるようになる。	臨床検査学講座 薬理学(医歯薬出版)および配布資料	薬はどのように体内をめぐっていくのか、この項で臨床検査技師は、薬物血中濃度モニタリングのための、薬物血中濃度測定を担当します。
		各コマにおける授業予定	神経系の自律神経系における効果器、受容体、その受容体が刺激された時の反応と基本的な薬理作用、中枢神経系の神経伝達物質とその治療薬について学ぶ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬効に影響する因子について理解できるようになる。	臨床検査学講座 薬理学(医歯薬出版)および配布資料	薬はどのように体内をめぐっていくのか、この項で臨床検査技師は、薬物血中濃度モニタリングのための、薬物血中濃度測定を担当します。
		各コマにおける授業予定	高血圧および虚血性心疾患・心不全の病態生理とその薬理作用について学ぶ。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬効に影響する因子について理解できるようになる。	臨床検査学講座 薬理学(医歯薬出版)および配布資料	薬はどのように体内をめぐっていくのか、この項で臨床検査技師は、薬物血中濃度モニタリングのための、薬物血中濃度測定を担当します。
		各コマにおける授業予定	各種ホルモンの作用、役割から内分泌器官の障害、異常に由来する疾患の薬物治療の基本(薬理作用、副作用)について学ぶ。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬効に影響する因子について理解できるようになる。	臨床検査学講座 薬理学(医歯薬出版)および配布資料	薬はどのように体内をめぐっていくのか、この項で臨床検査技師は、薬物血中濃度モニタリングのための、薬物血中濃度測定を担当します。
		各コマにおける授業予定	各感染症の病原体(微生物)と抗感染症薬の基本(薬理作用、副作用)について学ぶ。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬物が臨床検査値に影響を与える可能性について理解出来るようになる	臨床検査学講座 薬理学(医歯薬出版)および配布資料	今までの授業の総まとめとなります。臨床検査技師として医師に薬剤が臨床検査値に及ぼす可能性について話し合えるようになりましょう。
		各コマにおける授業予定	臨床検査技師として知っておくべき様々な薬剤が検査結果に影響を与える因子について学ぶ。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			